



CAMPUS

2018 SPRING

奈良工業高等専門学校

Vol. 129

平成30年3月発行
〒639-1080 奈良県大和郡山市矢田町22
奈良工業高等専門学校 広報室
TEL. 0743-55-6034(CAMPUS担当)
ホームページ <http://www.nara-k.ac.jp>
メールアドレス gakusei@jimmu.nara-k.ac.jp

奈良県生徒会活動等に関する表彰 優秀賞受賞



廃炉創造ロボコン文部科学大臣賞(最優秀賞)受賞



C contents

- 巻頭言 02
- 疑似セメスタ制について 03
- KOSEN4.0イニシアティブについて
高専女子フォーラム参加報告 04
- 同窓会の取り組み(50周年事業など)
平成30年度からの組織改編について
卒業&専攻科修了おめでとう! 05

- 国際交流プログラムについて 08
- 地域創生関係3部屋の紹介
学生表彰(優秀賞・皆勤賞・特別賞など) 09
- 学生会から(県生徒会活動優秀賞受賞など) ... 10
- クラブ・同好会紹介(陸上競技部&現視研)
学生チャレンジプロジェクト成果報告 11
- カウンセラーだより

I information

- ☆廃炉創造ロボコンで
文部科学大臣賞受賞!
- ☆卒業記念品の寄贈
- ☆行事予定(4月~7月)



片倉 勝己

奈良工業高等専門学校 学生主事

2018年を迎えて2ヶ月が過ぎ、まもなく4月を迎えようとしています。今春本校を卒業・修了する5年生や専攻科2年生の諸君は4月からの新天地での生活を前に格別な気持ちでこの時期を迎えていることと思いますし、新学期がスタートするこの時期を新しい年の始まりと感じる学生諸君も多いのではないのでしょうか。

さて、2017年、キャンパス内では合同教室やLR談話室(地域創生交流室)等の共有施設の改修整備に加えて、第二期基幹整備工事がスタートしました。1965年に本校が現在のキャンパスに正校舎を構えて50年以上の年月が過ぎ、普段、私たちの目に触れない基幹インフラ部分で進んでいた老朽設備を抜本的に改修する必要に迫られたからです。創立以来、本校では、社会や産業の変化を見据えながら学科の改組、カリキュラム改定、新たな教育プログラムの導入など、ハード・ソフトの両面において様々な教育面での改革を行い、毎年優秀な学生を受け入れて社会に優秀な人材として輩出してきました。この本校での教育研究活動を50年間支えてきた基幹部分の大手術は、広範かつ多岐にわたることから、工期の長い大工事となっています。そのため、その影響は駐輪場だけでなくグラウンドや講義等周辺にも及び、学生諸君には、学内外での移動や施設利用においても長期にわたって不便をかけているところですが、隠れた箇所工事ということで、工事が難航しており4月以降も工事が継続されることになりそうです。目立たない基幹部分の工事ということで、工事が終了しても劇的な変化を感じる箇所は少ないかもしれませんが、近いうちに改修整備されたキャンパス環境を見もらえることと思います。学生諸君の、引き続いての理解と協力に感謝したいと思います。

それでは、本論に入りましょう。本誌CAMPUS第122号2015Autumnに寄稿した際、「キャンパスの主人公」について書かせてもらいました。学生諸君が、奈良高専での学生

生活を、自らをキャンパスの主人公として過ごし、技術者である前に尊敬される人物として成長してくれることに期待を込めて寄稿したものです。今回はこの話題とは少し切り口を変えて見たいと思います。やや古い内容になりますが、2015年12月に株式会社野村総合研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役会長兼社長:嶋本 正)が「日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に」と題した衝撃的な研究成果を発表しました。同社は英オックスフォード大学のマイケルA. オズボーン准教授およびカール・ベネディクト・フレイ博士と共同研究を行い、国内 601 種類の職業について、それぞれ人工知能やロボット等で代替される確率を試算し、10から20年後に、日本の労働人口の約49%が就いている職業において、人工知能やロボット等に代替することが可能と推計したのです。¹⁾ オズボーン准教授らは、その2年前の2013年9月に「THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?」と題して、米国の雇用人口の47%が同様のリスクにあることを報告²⁾して話題になりました。この研究報告では、急速に発達するコンピュータ技術によって雇用環境にどのような影響な変化を受けるかという点が、数学的手法を用いて分析されています。これまでコンピュータ化が適さないと考えられていた職業の中にも10から20年先には代替できる職業があることや、賃金や教育レベルが高い人のリスクが低いこと、創造性や社会性を持つことが、リスクから身を守るために重要であろうことなどが述べられています。技術者や研究者を目指している本校の学生諸君にとっても、大変気になる研究報告はないかと思えます。この研究内容は、さまざまところで紹介されていますが、英語で書かれた原著が、英オックスフォード大学のホームページにて公開されています²⁾ので、誤った解釈をしないためにも興味のある学生は、ぜひ自分で実際に読んでみることを勧めたいと思います。

オズボーン准教授らの予想がそのまま現実となるかどうかはわかりませんが、この研究が発表されてから4年が経過した今もAIやICTなどの広義でのコンピュータ技術は日々発達しており、産業や社会構造、そして私たちの生活に様々な変化をもたらしています。このようなコンピュータ技術の開発に携わったり、あるいはコンピュータ技術を様々な形で利用したりする立場が予想される工学系を土俵としている学生諸君や教職員にとっては、より身近な話題と言えるでしょう。何れにしても、これからは単に知識を身につけただけでは将来を担う技術者としては不十分で、コンピュータという相棒とどのように接しながら仕事をしていくのかということ念頭におくことが重要になると考えられます。そのためには、自分の個性を磨きながら創造性を養うとともに、社会性を養うためには普段の生活の中でどのようなことに気を配れば良いかという点についてもじっくりと考えながら学生生活を送っていくと良いのではないのでしょうか。

1) 株式会社野村総合研究所「ニュースリリース」

https://www.nri.com/jp/news/2015/151202_1.aspx (2018年2月17日)

2) Research Publication, Oxford Martin School, University of Oxford, UK

<https://www.oxfordmartin.ox.ac.uk/downloads/academic/future-of-employment.pdf> (2018年2月17日)





いわゆる「疑似セメスタ制」の導入について

教務主事 武田 充 啓



皆さん、こんにちは。教務主事の武田です。今年最初の放送による全校集会でも少しお話ししましたが、大事なことなので、来年度の年間行事に関するお話をここでも繰り返しておきたいと思います。

奈良高専では来年度から、いわゆる「疑似セメスタ制」に移行します。

高専は学年制ですので、大学のようにセメスタに区切って半年ごとに単位を出すことはできません。ですので、授業の期間だけを大学と同じようにします。それで「疑似セメスタ制」というわけです。この制度の導入が可能になった前提の一つとして、奈良高専にあるほぼすべての施設で空調設備が調ったということがあります。

大きく変わるのは、前期の授業が4月から8月の初旬まで続くという点です。前期末試験が終わり、8月中旬から夏休みが始まり、9月いっぱいまでが夏休みの期間になります。10月から後期が始まる点は今と同じですが、最大のメリットは前期の授業が夏休みで分断されることなく前期末試験まで一続きでおこなえる点でしょうか。

これまで夏休み明けに2回ほど授業をすると、もう前期末試験というような日程でしたから、新しいことを学ぶ十分な時間もなく、長い休みの前までに学んだことを思い出したり復習したりするのがやっとの状態で試験に突入することに

なっていましたから、こうした状況は改善されることになりました。

来年度には、私立高専を除いて、近畿地区のすべての高専が疑似セメスタ制で揃うことになるとも聞いています。さまざまな行事や大会など多くの高専で夏休み期間が揃うことによるメリットも出てくることでしょう。しかし、放送でもふれましたが、この制度にデメリットがないわけではありません。

期末試験まで授業が一気におこなえるとはいえ、部屋に空調があったところで7・8月はやはり暑い季節です。勉学を続ける気持ちを持続させることが大切になってきます。また、前期末試験が終わってからの長い夏休みの間に前期に学んだことをすっかり忘れてしまうということも考えられます。

高学年の皆さんは大学に進んだ友達や仲間たちと夏休みの期間がそろいます。これはメリットかも知れませんが、反対に低学年の皆さんは、高校に進学した友達や仲間たちとは、夏休みの期間がかなりずれてくることになります。こちらはデメリットかもしれません。こうしたことをふまえて来年度の夏休みの勉強や遊びの計画を立ててください。

皆さんがこれを読む頃は、学年末の試験も終了し、新しい学年に向けて気持ちを向けていることと思います。少し遠い先の大きな目標とは別に、来年度に達成できるこの一年間の短期的な目標もまたしっかり立て、有意義な一年にしてください。



“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブについて

グローバル教育センター長 松井 良明

平成29年度「“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブ」において、本校の「グローバル工学協働教育による国際競争力を有するプロフェッショナルリーダー人材の育成」事業が採択されました。この事業を通して「国際化の加速・推進」と「新産業を牽引する人材育成」を奈良高専の新たな特色として伸長することが期待されています。

本校ではすでに平成29年度から正課外プログラムとして「グローバルエンジニア養成教育プログラム(GEP)」を開始していますが、平成30年度以降は、このプログラムをさらに発展させた「グローバル工学協働教育プログラム(GECEP(ジーセップ))」を実施することになりました。

このプログラムの教育目標は、国籍、人種、言語、性別などの違いに関係なく人々と自由に意思疎通して信頼関係を築きながら活躍できるグローバル・プロフェッショナルリーダーを育成することです。この目標を達成するために本科年を対象とするベーシックプログラムと、専攻科年を対象とするアドバンスプログラムを開設する点はGEPと同じですが、新たにグローバル視点でのSPIC力(Solution:課題解決能力、Publication:研究成果の発信力、Identity:独自性と独創性、Collaboration:協調性・共同研究力)を養うことを目標に加えました。

Eラーニングを含む自学自習と海外協定校とのグローバル工学協働教育を通して、バーチャルと実体験を組み合わせ

た独自のカリキュラムを提供します。具体的には、本科年での海外協定校からの学生の受入と派遣、専攻科年での海外教育研究機関でのインターンシップないしは国際学会での発表等が本プログラムには含まれており、GECEP受講生はそれらに優先的に参加することができます。

ただし、海外協定校への派遣と受入は本校主催のものであれ、機構本部の主催によるものであれ、GECEP受講生以外の学生も応募することができます。海外に興味のある人はぜひ学生課にあるグローバル教育センター掲示板をチェックするようにしてください。

これを機に、より多くの奈良高専生が自ら視野を広げ、グローバル視点を備えていってくれることを期待しています。

参照：“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ
http://www.kosen-k.go.jp/main_super_kosen.html



「平成29年度第1回香港・中国短期訪問派遣プログラム」より(香港IVE)





奈良女子フォーラムの参加報告

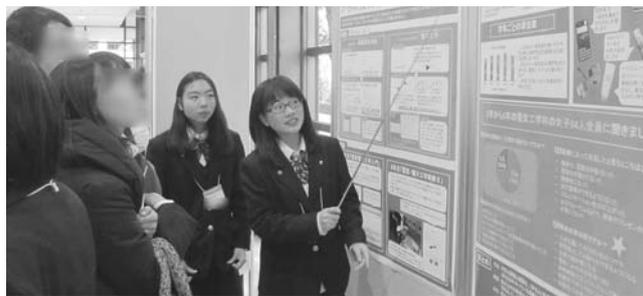
高専女子フォーラムで学んだこと

電気工学科1年 磯田 琳花
柳澤 伶果

私たちは今年、初めて発表者として高専女子フォーラムに参加し、中学生とその保護者、企業の方々に対し、低学年からの技術者教育についてポスター発表しました。発表準備では、不慣れだったパソコン操作もポスターを作成していくうちにスキルが向上しました。先生や先輩方のアドバイスを取り入れながらの発表練習で話し方を学びました。

フォーラムでは、初めて会う人に対しての発表は思っていたよりも難しく「わかりやすく」「簡潔だけど丁寧に」を常に考えていました。ま

た、他高専の女子学生や企業の方々の発表を聞いて、これからの高専生活や自分の将来を考える良い機会になりました。今回の経験を次年度のフォーラムに活かそうと思います。

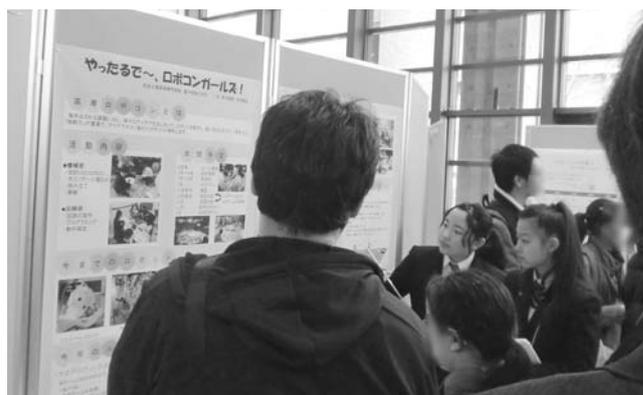


高専女子フォーラムを通して

電子制御工学科1年 今岡 美杜
青木 凜夏

私たちは、高専女子フォーラムで女子中学生とその保護者、企業の方々に向けて、5年生の指導を受けてロボコンプロジェクトについてのポスターを作成し、発表を行いました。

1年生で発表は初めてであったので、苦勞することもありました。しかし、当日はたくさんの方に話を聞いて頂いたことにより、自分達のプレゼンテーションのスキルを向上させることができました。また、他高専の発表を聞いたり、実際に社会で活躍されている女性技術者の話を聞くことができ、将来を考える良い機会になりました。



奈良高専同窓会の取り組みについて

奈良高専同窓会会長 西口 馨

奈良高専同窓会の取り組みを紹介する機会を与えていただきありがとうございます。現在取組み中の内容を簡単に紹介させていただきます。

1. 同窓会設立50周年事業

奈良高専同窓会は昭和44年(1969年)3月に第1期生が卒業して以来、現在8,000名近い会員数を抱える組織となり、平成31年(2019年)に設立50周年を迎えることになります。

これを機会に同窓会50周年記念事業を実施したいと考えていますが、その事業内容は同窓会会員の皆さんのアイデアにより以下の項目にする予定です。

実施事業内容(案)

- (1)式典、イベント開催(式典、パーティー等)
- (2)記念冊子、会報発行(卒業生50人程度に執筆依頼、電子版で配布)
- (3)記念品作成、贈呈(式典参加者、寄付金者対象)

(4)同窓会会員名簿、HP改善、卒業生ネットワーク作り(SNSを活用した情報提供、共有化等)

(5)学校への記念事業(現役学生に向けた事業の提案)

具体的な内容はこれから検討していく予定ですが、その準備を本年度より計画的に実施していく必要があります。準備作業にご協力いただけます方々を募集していますので同窓会ホームページより申し込み願います。

2. 母校(在校生)への貢献取り組み

昨年度より在校生への貢献事業として「学生チャレンジプロジェクト」へ寄付をさせていただいています。毎年2件分の費用ではありませんが、学生生活充実のために有効活用ください。また、学校名の横断幕の作成、寄付なども実施していますが、ご希望がありましたら同窓会事務局まで申し出ください。

奈良高専 同窓会 HP <http://shinme.sakura.ne.jp/>



平成30年度からの組織改編について

平成30年4月から学内業務の効率化、教員業務の平滑化、運営体制の強化等を図るため、組織改編を予定しています。

改編後には5部門体制(教務部門、学生部門、寮・グローバル教育部門、専攻科・研究推進部門、総務部門)となり、より一層充実した議論や迅速な意志決定が期待されます。

部門名	部門長	関係委員会及び関係センター
1. 教務部門	教務主事	教務委員会 教育支援センター
2. 学生部門	学生主事	学生委員会 進路対策協議会 学生支援センター
3. 寮務・グローバル教育部門	寮務主事	寮務委員会 学寮委員会 グローバル教育センター
4. 専攻科・研究推進部門	専攻科長	専攻科委員会 「システム創成工学」教育プログラム教学委員会 「システム創成工学」教育プログラム教育改善委員会 産学協働研究推進センター
5. 総務部門	総務担当校長補佐	将来計画委員会 点検・評価委員会 「システム創成工学」教育プログラム達成評価委員会 広報センター





機械工学科5年 中川 達也

奈良高専での5年間はとても充実しており、入学してから卒業までは一瞬でした。思い返せば私は、「ものづくりに興味があった」。それだけの理由で奈良高専への入学を決めました。普通の高校生とは違い、比較的早い段階から高度な専門知識を叩き込まれた私達の学校生活は、勉強、部活、学校行事、研究と忙しくも楽しい5年間でした。レポート提出期限前日には謎の集中力を発揮し、そして試験前ともなるとみんなで協力しながら勉強に勤しんだことも今では非常に良い思い出です。ほぼ小学校と同じ期間にてクラス替えもない中で共に過ごした私達の仲の良さは言うまでもなく、またそれは同研究室で共に研究してきた仲間達であればなおさらのことであったと今更ながら身にしみて感じる次第であります。



これから私達は就職や進学など、それぞれ別々の新しい道を行くことになる、多くの困難に直面すると思います。しかし、奈良高専で培った確かな技術力と知識は必ずや私達の大きな武器となると信じています。

最後に、両親をはじめとした教職員の皆様、そしてみんな!!本当にありがとうございました。私達は誇り高き奈良高専の技術者として、奈良高専を卒業します。

機械工学科5年学級担任 矢尾 匡永

5年生の皆様、卒業おめでとうございます。担任としては1年間でしたが、このクラスはやや個人主義が強いように感じています。また、世の中の基準から考えればもっと積極的に知識や技術を吸収していくことが必要ではないかとも思っています。今後は、これまで以上に広がった人間関係すなわち、仲間だけでなく、上司や部下との関係の中で、ますます勉強・研究や仕事を通して、君たちが評価されていくことになると思います。高く評価されることで、良好な人間関係も生まれてきます。そのために、熱中して丁寧に迅速に仕事(研究)してください。



卒業旅行での5Mクラスメイト達

卒業おめでとう



電気工学科5年 加藤 太希



5Eクラスメイト達

入学してから5年間があつという間に過ぎました。5年間という時間は長いようですが、今となっては名残惜しく感じます。

高専生活では、様々な思い出がありました。私たちのクラスはとても仲良く、行事ごとには全力で挑み、またコスプレが大好きなクラスでした。スポーツ大会では、表彰入りの常連クラスで、応援方法にコスプレ

電気工学科5年学級担任 土井 滋貴

学生諸君、卒業おめでとう。今年の5Eは3年生から連続して担任をしたクラスです。この学年は電気科でも久々のにぎやかなクラスで、元気だ、明るい、と言えばよく聞こえますが、その分、もう少しちゃんとね、という部分も自他共に認めるところだったと思います。そんなクラスでしたが、今ではしっかりと成長し、次のステップに歩み出します。周りがヤキモキしなくても、皆ちゃんと成長するのだと改めて感じさせられる3年間でした。

が定番となり、何をモチーフにするか毎回もめて大変でした。文化祭では、5年生にして初めて模擬店を出展し、ド

ラゴンボールに扮したコスプレで客引きし、人気投票で2位に輝きました。衣装や看板作製のために、皆で遅くまで残り準備したことが良い思い出です。

高専生活の集大成となる卒業研究では、研究結果の出ない苦しい日々が続きました。研究に行き詰ってうまくいかないときに一緒に問題の解決をしてくれた指導教員の先生には頭が上がりません。

これから私達は進学する者、社会に出て働く者など様々な道に進んでいきます。しかし、私達のことなのでどこかで集まることでしょう。たくさんの楽しい思い出と時間をくれたクラスメートの皆に感謝し、この文章を締めくくりたいと思います。5年間本当にありがとうございました。



スポーツ大会ではコスプレで応援



電子制御工学科5年 有城 絢香

雨が降った次の日、桜が散ってしまっていた入学式から早5年、気がつけば卒業の日を迎えていました。入学当初は女子として、また、個性溢れる新たなクラスメイトの中でやっていけるか不安を抱いていたあの頃がとても懐かしく思います。

5年間を思い返すと胸が熱くなります。1年次から実験のレポートや課題などに追われ、クラス一丸(?)となるも結局一度も入賞することがなかったスポーツ大会など、多忙ながらも充実した毎日でした。このような日々が終わってしまうのかと思うと少し寂しさを感じます。卒業旅行では帰りの飛行機が飛ばず延泊になるといったハプニングがあり、私達の日頃の行いの良さを実感していたのも良い思い出です。

最後に、勉強や進路など親身に相談に乗ってくださったほか、全ての研究室に足を運び、鋭く的確な指導をしてくださり、共にコーヒープレイクを楽しみ、様々な面から学生生活を支えてくださった先生方に深く



クラスメイトの女子とともに



感謝申し上げます。そして団結力皆無ながらも充実し楽しかった時を共に過ごしてきたクラスメイト、軽音部の仲間や5年間を通して出会えた人たちに圧倒的感謝!

電子制御工学科5年学級担任 西田 茂生

ご卒業おめでとうございます。諸君とは担任という立場で3年生から卒業の日まで学校生活を共にしてきました。今まで様々なクラスを受け持ちましたが、これほど個性の強いクラスは初めてでした。そのためクラス運営には手を焼きましたが、その分深く記憶に残っています。スポーツ大会入賞は皆無でしたが多読表彰では毎年入賞、4年次の実践システムコンテストでは散々な結果、卒業旅行ではまさかの延泊等々様々なシーンが想起されます。

これから諸君はそれぞれの道を歩んでいきますが、必ず困難な場面に遭遇するはず。その時にはこのクラスで培ったケーススタディの成果を活かし、難局を打破してください。

卒業おめでとう

情報工学科5年 黒田 晃平

もうすぐ5年間の学生生活が終わりを告げようとしています、あまり実感がわいていません。これは、私が専攻科に進学するからでも、単位や卒業研究に追われているわけでもなく、来年度から大多数の同級生と顔を合わせなくなる日常が想像できないからです。

この5年間、私はたくさんの人のお世話になりました。専門的な能力を身につけるだけでなく、委員長など沢山の役職を任せてもらったことや、高専祭の学科展に励んだこともあり、人としても成長できる機会に恵まれ、充実した学生生活だったと私は感じています。しかし、この5年間は良い事だけでなく、辛く苦しい事もありました。そんな時、同級生との何気ない会話や、私が所属していた生協学生同好会には本当に助けられました。卒業後の日常が想像できないのは、今のメンバーの学生生活があまりに楽しく、心地良いので、終わって欲しくないということもあるからでしょう。



51クラスメイト達



51クラスメイト達

最後に、5年間充実した学生生活にしてくれた同級生の皆さん、日々の学生生活を支えてくれた家族、勉強や研究や進路指導だけでなく、様々な相談に親身になって考えてくださった先生方に深く感謝します。5年間、本当にありがとうございました。

情報工学科5年学級担任 岡村 真吾

情報工学科5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの高専生活はいかがでしたか?皆さんは奈良高専で、知識、技術、友人など、色々なものを得たかと思います。これから先も、新しい技術が次々と生まれ、それによって世の中は変わっていくと思います。皆さんには技術者あるいは研究者として、現状に満足せずさらに腕を磨いて欲しいと思います。4月からは、それぞれ新しい道に進むこととなりますが、奈良高専で得たものを活かして、それぞれの道で活躍してくれることを期待しています。





物質化学工学科5年 吉村 竜翔

5年の月日も早いもので、今年の3月をもって卒業することになりました。この5年間の思い出を振り返ると、様々な体験や思い出がありました。インターンシップでは、実際の社会がどのようなものであるか、会社とはどういうものかを知ることができました。また、部活や委員会では、違う学科の先輩や後輩、そして同学年とともに夢に向かって努力することの楽しさや大切さを知ることができました。楽しい思い出だけでなく、つらく苦しい思い出もありました。しかし、それら1つ1つが奈良高専で得た貴重な体験だったと思います。この5年間本当にたくさんの方々に支えられてきました。各学年、学科のクラス担任としてお世話をして下さったり、進路や実験、勉強など様々な相談や質問に応じて下さった指導教員の皆様、部活や研究室に入ったばかりで分からないことばかりだった私に親切に指導して下さった先輩方、毎日優しく見守ってくれた両親に支えられ、私の5年間の高専生活がとても充実したものになりました。現在、この学校に在籍している皆様は、より充実した高専生活をおくれるように頑張ってもらいたいと思います。最後になりましたが、在学中お世話になった方々にこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



5Cクラスメイト達



5Cクラスメイト達

物質化学工学科5年学級担任 宇田 亮子

卒業おめでとうございます。この一年、クラスには色々なことが起こりました。自分には起こらなかった、でも友人には起こった事について思いを巡らせてみてください。これから皆さんは色々未知の出来事に遭遇します、その時に「そう言えば似たような事どこかであったよな」と思うと大きく有利です。想像力があること、社会人の能力の半分はこれで決まります。洞察力、コミュニケーション力、機転と言い換えても良いかもしれません。また人生は一回だけで、残念ながら幾つものパターンを経験できませんし、ましてやどれがハッピーエンドになるのか分かりません。友人は自分とは違うパターンを選んだのかも知れず「じゃあ自分ならこうするかな…」と考えることは人生を豊かにします。想像力を武器とするために、高専での日々を財産にしてください。

機械制御工学専攻2年 長渡 知明

専攻科での2年間はあっという間で、二月は逃げて走ると言いますが、二年も逃げて走って行ったかのように思えます。これから私たちは、7年間付き合ってきた環境・友人と別れ、それぞれの道を歩みます。別れといえば、昨年12月末で奈良高専の横にある喫茶店「田園」が閉店しました。ここには多くの学生と教員がお世話になりました。田園のおばちゃんは奈良高専の「食」という点での母親といっても過言ではないと思います。即席麺で食事を済ませる学生が増えることの無い様に願います。

最後に、今日までご指導くださった先生方、支えてくれた家族、共に切磋琢磨してきた仲間達、7年間、本当にありがとうございました。

電子情報工学専攻2年 中村 優太

7年間という長い高専生活もようやく終わりを迎えました。しかし、専攻科の2年間は本当にあっという間に終わりました。授業、それに伴う課題、研究、受験の準備など忙しくも充実した日々を送ることができました。様々なタスクを同時にこなす中で忙しさから逃げ出したいこともありました。先生方や7年間共に過ごしてきたクラスメイト、家族の支えがあったからです。心から感謝しています。ありがとうございました。

化学工学専攻2年 東出 希実

7年間の高専生活がついに終わりを迎えました。専攻科での活動は本当に濃く、気付けば2年が経っていました。研究活動では国際学会でチェコ、オーストリアに、海外インターンシップではシンガポールに行き、多くの海外渡航の機会を与えていただきました。これらで得た経験は、一生の宝です。本当に忙しい2年間でしたが、無事修了することができたのは、今まで一緒に頑張ってきたクラスメイトがいたからです。7年間ありがとうございました。最後になりましたが、今まで支えてくれた家族のみんな、先生方、本当にお世話になりました。

専攻科修了おめでとう



専攻科生のみならず

専攻科長 藤田 直幸

修了おめでとうございます。三段跳びに例えれば、高専本科での学びを「ホップ」とすると、専攻科での学びは「ステップ」に相当し、いよいよ社会や大学院への「ジャンプ」の時を迎えられたと思います。皆様飛び立とうとしている日本社会は、少子高齢化やグローバル化の波が押し寄せる一方、AIなどの新技術により生活が一変することも予想されています。その中でエンジニアの果たす役割も大きく変わることでしょう。真の実力が試される時代が来ています。高専7年の学びをバネに、エンジニアとして大きく力強くジャンプして下さることを期待しています。





奈良高専の国際交流プログラム

グローバル教育センター 板倉 和裕

国や言語の壁を越え、世界で活躍することのできる「グローバル人材」への社会的ニーズが高まるなか、留学や海外インターンシップへの参加に関心をもつ学生は確実に増えてきていると思われます。しかし一方で、「海外に興味はあるけれど、実際に行くのは不安」とこの足を踏んでしまう学生も少なくないのではないのでしょうか。グローバル教育センターでは、そうした学生の不安や海外への抵抗感を取り除き、将来の留学や海外インターンシップへの参加を後押しするため、低学年のうちから参加することのできる多彩な国際交流プログラムを提供しています。ここでは、今年度実施した2つの交流事業を中心に本校の国際交流プログラムについて紹介したいと思います。

1つは、アジア・ユース・フォーラム (AFY: Asian Youth Forum for Sustainable Future) への学生派遣です。これは「持続可能な社会」の実現についてアジアの高校生が話し合う国際会議で、毎年夏頃に一週間程度の日程で開催されています。今年度は奈良女子大学附属中等教育学校がホスト校をつとめ、昨年7月27日から8月1日の日程で、『災害』をテーマに開催されました。韓国・台湾・マレーシア・インドネシア・日本

から8校の学生約50名が参加し、本校からは2年生の学生5名が参加しました。参加した学生たちは、自国の文化紹介や災害に関する講演を聴き、アジアの国々の多様な文化や過去の災害について学んだほか、海外の学生と一緒にポスター作成を行うなど、英語漬けの一週間を過ごしました。今回は開催地が奈良であったことから、7月29日には、本校を会場に、「グローバルエンジニア養成教育プログラム」を受講している専攻科生による学校紹介や各校による『災害』をテーマとしたプレゼンテーションを行い、英語での活発な議論が行われました。

もう1つは、「香港IVE学生受入プログラム」です。これは本校と国際交流協定を結んでいる香港專業教育學院(香港IVE)と連携して行っている国際交流プログラムです。本校では、毎年夏季休業期間に香港IVE学生の短期訪問受入を行っています。今年度、香港IVEの一行は昨年8月6日から8月12日の日程で奈良に滞在され、同校の学生17名が本校を訪問し、交流活動を行いました。訪問中には、香港IVE学生と本校の学生がそれぞれ英語を使って文化紹介と学校紹介を行ったほか、キャンパスツアーや茶道体験も実施し、5学科の実験室などの施設を見学していただきました。また、『環境保護』をテーマとしたプロジェクト・ワークでは、香港IVEの学生と日本人学生が協働して環境問題への取り組みについて議論し、英語によるプレゼンテーションを行いました。

これらのプログラムは短期間とはいえ、参加学生にとってはふだん教室で学んでいる英語の知識を最大限に駆使して英語でコミュニケーションをとり、自分の国の文化について語り、外国の文化について学ぶ大変貴重な機会となっています。また、低学年のうちに国際交流活動に参加した学生の多くがその後高学年対象の海外研修プログラムに参加していることから、海外を身近に感じられるようになるきっかけにもなっていると思われます。グローバル教育センターでは、世界で活躍することのできる「グローバルエンジニア」の養成を目標に、今後もさまざまな交流活動を企画・実施していく予定です。



アジア・ユース・フォーラムへの学生派遣



香港IVE学生受入プログラムにて



地域創生関係3部屋の名称が決まりました!

COC+実施責任者 藤田 直幸

本校は、平成27年度に「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)に採択され、「地(知)の拠点大学」の認定を受けています。COC+は、大学・高専が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を行うものです。

この認定を踏まえて、平成29年度に高度化改組を行った専攻科の改革の1つの柱を「地域創生への貢献」と定めて、「地域社会技術特論」、「地域創生工学研究」といった地域創生に関わる授業を専攻科のカリキュラムに導入してきました。また、本科においても、「地理」、「政治経済」、「社会科学特論」などの講義において、地域創生に関わる授業を実施してきました。

これらの授業は、アクティブラーニング(A/L)といった学生が主体的に学びに関わる形態で実施されることが多く、そのため、A/Lに適した

教室が必要となってきました。そこで、平成28年度、29年度にわたって、COC+予算、専攻科高度化予算などで、既存の3教室を改修し、新たに地域創生に関わる学びが推進できるA/L教室を整備しました。この度、3教室の名称を学生・教職員に募集した結果、『地域創生大講義室』、『地域創生視聴覚室』、『地域創生交流室』に決定しました。それぞれの教室は、キャスター付きで移動が容易な机と椅子、電子黒板2~3台、壁面ホワイトボード、自立式ホワイトボード、小型ホワイトボード(大講義室と視聴覚室)、無線LANを備えています。これらの設備を使うことで、視聴覚教材の提示や、グループでの学習などが行いやすくなりました。現在、地域創生関係以外の授業でも幅広く活用されています。特に、『地域創生交流室』は、吉野の木材の床、棚、カウンターを使った教室で、木の香りとぬくもりを感じることができる部屋です。この部屋は、学生の課外活動などにも開放していく予定です。



地域創生大講義室



地域創生視聴覚室



地域創生交流室





平成29年度(後期)学生表彰者

優秀賞

5 M 中島 夏美、中村 友哉、 5 E 辰巳 幸弘、徳井 幸輝、 5 S 今井 溪太、大西 和真、
5 I 田谷 瑛悟、松浦 穰、CHALEUNSOUK BOUNPASITH(パシット)、 5 C 大西 朝登、松下 紗也子

皆勤賞

5 M 空閑 敦士、中島 夏美、源 貴裕、
5 E 乾 聡一郎、上垣 溪香、嶋本 健人、下村 奈穂、巽 智博、辰巳 幸弘、松田 和也、森 裕司、
5 S 粟生 小百合、大矢 直樹、丸本 壮起、三村 陽夏、安川 昂佑、
5 I 田谷 瑛悟、
5 C 篠原 真里奈、西澤 峻平、濱根 優斗、平川 泰己、平山 可奈子、松下 紗也子、南 寛輝、山田 和門

特別賞イ

5 M 小野 大樹 第49・50・51・52回全国高等専門学校体育大会 陸上競技の部 出場
瀨川 紘生 第44・45・46・47・48回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会 出場
藤田 直土 第44・45・46・47・48回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会 出場
5 E 上垣 溪香 第48・49・50・51回全国高等専門学校体育大会 水泳競技の部 出場
嶋本 健人 寮生会活動(寮長1期、副寮長2期) 功労
5 S 北村 太樹 第20・21・22回全国高等専門学校将棋大会 出場
西村 海里 学生会活動(会長1期、会計2期) 功労
5 I 西川 晋太郎 第50・51・52回全国高等専門学校体育大会 陸上競技の部 出場
澗田 健介 第49・50・51回全国高等専門学校体育大会 陸上競技の部 出場
5 C 笠原 海帆 第48・49・50・51回全国高等専門学校体育大会 水泳競技の部 出場
小出 ゆり 第48・49・50・51回全国高等専門学校体育大会 水泳競技の部 出場
高堂 香里 第48・49・50・51回全国高等専門学校体育大会 水泳競技の部 出場
小篠 李佳 第48・49・51回全国高等専門学校体育大会 バドミントン競技の部 出場
田中 咲磨 第44・45・46・47・48回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会 出場
西岡 心 海洋研究開発機構主催サイエンスクルーズ採択1回、
日本科学協会サイエンスメンター制度採択2回、同制度 最優秀賞受賞
東 敏和 第21・22・23・24回全国高等専門学校将棋大会 出場

特別賞ロ

○KOSENセキュリティ・コンテスト
2017 優勝 4名
4 E 宮下 響、
4 S 萬代 裕輔、
4 I 前田 宏希、森田 悟大

特別賞ハ

○第2回廃炉創造ロボコン文部科学大臣賞(最優秀賞) 受賞 3名
5 S 大矢 直樹、竹村 元気、
安川 昂佑

専攻科研究優秀賞

MS 2 木下 稔基
E I 2 奥戸 嵩登
AC 2 東出 希実

優秀賞……在学5年間に於いて、学業成績が優秀で、人物が優れている者に贈られます。

皆勤賞……在学期間中、欠席、欠課がなかった学生に与えられます。ただし、同一科目における遅刻、早退は3回で欠課1時間とみなされます。

特別賞イ……在学期間中、全国高専大会に3回以上出場した者並びに課外活動等において特別な功績があった者に贈られます。

特別賞ロ……全国大会又はこれに準ずる大会において、優勝又は準優勝した個人又は団体に贈られます。

特別賞ハ……口に準ずる催し物において、それらと同等と認められる成績を挙げた個人又は団体に贈られます。

特別賞ニ……学校内外において特別な善行、学生の模範として推奨できる行為又は功労等のあった個人又は団体に贈られます。

専攻科研究優秀賞……専攻科在学期間中、論文等の特に優れた学術研究活動が認められた者に贈られます。

平成29年度 英語学習表彰者

英語学習優秀賞(11名)

3 M 吉田 太地、
4 S 生駒 雅晴、木田 圭祐、
5 E 嶋本 健人、5 S 西井 智紀、
5 C ARYA DHARMA(アリヤ)、大西 朝登、
AE 1 井上 森平、
MC 1 渡邊 真衣、
E I 2 奥戸 嵩登、高木 雄司

英語学習奨励賞(21名)

2 C 岩谷 柊二、仁木 海斗、
3 M 足立 悠喜、大川 真生、
3 E 田原 大貴、
3 I 田村 優次郎、
3 C 青田 奈恵、
4 E 杉本 虎太郎、鶴崎 裕太、
4 S 樟 このみ、萬代 裕輔、吉村 勤太郎、
4 I 森田 悟大、矢野 真綾、

5 I 中谷 彦太、西川 耕平、
CHALEUNSOUK BOUNPASITH(パシット)、
AM 1 水田 航平、
MS 2 木下 稔基、迎山 航基、
E I 2 長濱 将太

英語学習努力賞(1名)

5 M 空閑 敦士

【英語学習表彰制度】 本校学生の英語力向上を図るため、OEICスコアの優秀者と英語検定合格者を表彰する制度です。平成29年度は計33名の学生が、次の基準によって表彰を受けました。

英語学習優秀賞…本科生・専攻科生のうちTOEIC735点以上または英検準1級以上に合格した者

英語学習奨励賞…本科生・専攻科生のうちTOEIC605点以上または英検2級に合格した者

英語学習努力賞…本科生のうちTOEICスコア470点以上または英検準2級に合格した者

(平成28年11月1日以降にTOEIC試験または英検を受験し結果を平成28年12月1日までに受け取れなかった者及び平成28年12月1日から平成29年3月31日までにTOEIC試験または英検を受験した者で、英語学習努力賞の「本科生のうちTOEICスコア470点以上または英検準2級」の基準を満たした者)





学生会から

『学生会行事について』

学生会会長 電気工学科3年 川本 真也

皆さんこんにちは。突然ですが、皆さんは「学生会行事」に参加していますか？

そもそも「学生会行事」とは、本科全学生が所属する学生会が主催となって行われる行事のことですが、そこまで堅苦しいようなものではなく、平たく言えば「学生が主体となって開催するイベント」のことです。特にスポーツ大会や高専祭などがよく知られ、参加している人も多いと思います。

おそらく一度も学生会行事に参加したことがないという人はいないと思いますが、学生会行事を主催する側になったことがある人は、ほんの一握りではないでしょうか？

先ほど書いた通り、学生会行事は学生が主体となって開催するイベントです。もちろん参加しないより参加する方が良いとは思いますが、これまでの皆さんの学生会行事への参加の仕方はどうだったでしょうか？一部の学生のみが苦勞をし、それに気づかないふりをして自分だけが楽しければいい、といった参加の仕方をしていませんか？

もう一度書きますが、学生会行事は学生が主体となって開催するイベントです。イベントにはそれぞれ、様々な参加の仕方や関わり方がありますが、あくまで主催は一部の学生で構成される団体でしょう。しかし、学生が主催するイベントであるからこそ、参加する学生も一体となってイベントを作る心構えは必要だと思います。

ここまで書きましたが、この文を読んでいる学生はそう多くはないでしょう。なぜなら、学生一人一人の学生会や学生会行事への関心が薄い、と日々の学生会執行部の活動の中で感じているからです。

こういった現状を少しでも改善するために、今後も学生会長として出来ることを探し、実践していこうと思います。

『奈良県生徒会活動等に関する表彰で 優秀賞を受賞しました!』

このたび、奈良県高等学校生徒会連絡会主催の平成29年度「生徒会活動等に関する表彰」において、学生会による登下校時の交通安全運動が見事、優秀賞を受賞しました。活動報告会及び表彰式は1月24日、奈良県立教育研究所にて行われ、学生会を代表して学生会長 電気工学科3年 川本君と書記 機械工学科2年 橋口君が出席しました。日頃の堅実な取り組みが評価され、出席した2人は誇らしい表情で優秀賞の賞状を受け取っていました。



活動報告会の様子



表彰会を終えて



校長先生、片倉学生主事、玉木学生主事補と



クラブ・同好会紹介

vol.17

体育部

- ☆アーチェリー
- ☆合気道
- ☆弓道
- ☆剣道
- ☆硬式テニス
- ☆硬式野球
- ☆サッカー
- ☆柔道
- ☆少林寺拳法
- ☆水泳
- ☆ソフトテニス
- ☆卓球
- ☆バスケットボール
- ☆バドミントン
- ☆バレーボール
- ☆ハンドボール
- ラグビー
- ★陸上競技

文化部

- からくり
- ☆機械研究会
- ☆軽音楽
- ☆茶道
- ☆将棋
- ☆情報処理研究会
- ☆吹奏楽
- ☆美術
- ☆放送

同好会

- ☆化学同好会
- ☆合唱同好会
- ☆クイズ研究会
- ★現代視覚文化研究会
- ☆生協学生同好会
- ☆システム開発同好会
- ☆数学同好会
- ☆電気技術研究会
- ☆料理研究会

☆印は既刊号で紹介したクラブ・同好会です。



陸上競技部

機械工学科3年 児島 大河

陸上競技部は、男子18人・女子3人で月曜日～土曜日の週6日グラウンドで活動しています。先輩後輩の仲が良く、和気藹々とした部活です。しかし、「やる時はやる」メリハリを大事にしています。

僕たちは、7月・8月に行われる近畿高専大会・全国高専大会に向けて日々仲間たちと切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。専門的な技術を教えていただける指導者が常時いてもらえるわけではないため、自分達で考え、教えあいながら、記録・技術向上を目指して頑張っています。ここ最近では、毎年近畿高専大会での上位入賞者がたくさんおり、多くの部員が全国高専大会に出場し優秀な成績を収めています。今年も多くの部員が全国大会に出場し優秀な成績を収められるように頑張ります。



現代視覚文化研究会

電子制御工学科2年 高松 亜希子

私たち現代視覚文化研究会、略して現視研は、月曜日～金曜日の放課後に課外教育共用施設内の部室で活動しています。主な活動は創作活動で、イラストや小説を書いたりゲームや音楽を作ったりしています。また、高専祭で部員の創作物をまとめた会誌やCDの頒布を行ったり、現視研ホームページにて、年4回会誌の公開をしています。また、現視研ホームページでは、過去に公開や頒布があった会誌も公開しています。

絵を描いたり小説を書いたりすることが苦手な人でも気軽に楽しく活動出来る部活です。興味のある方はぜひ一度現視研の部室に足を運んでみてください。ホームページもよろしくお願ひします。





学生チャレンジプロジェクト成果報告

弁当は奈良を救う ～奈良高専女子による奈良のための弁当～

プロジェクト名:「奈良県企業×高専女子による共同開発プロジェクト」
参加学生:電気工学科4年 朝雛 えみり、小田 佳穂、阪本 真奈、
電子制御工学科4年 東 優稀、物質化学工学科4年 橋本 歩実

私たちは「奈良県の地域創生に貢献しよう!」ということで、奈良県企業3社に協力していただき奈良県らしいお弁当を販売するために日々活動しています。

昨夏にプロジェクトを始動し、協力していただいた企業3社を訪問しました。企業の方にお弁当についてアドバイスして頂き、より良いお弁当の製作に繋がりました。高専祭では、来場客にアンケートを行い、お弁当のニーズを調べました。また、企業の人との交流を通して、技術者として必要なものづくりについてのノウハウを学びました。そして、高専女子フォーラムや学内発表によってプレゼン能力が向上しました。実現性があり、かつ奈良県のためになるような新しいものを一から考え上げることの大変さとやりがいを知ることができました。また、自分たちが学習してきたことが実際の生産ラインに使われており、日頃の学習の意義を見出せました。今回の経験を今後に生かしたいと考えています。



テキサン、それは"奈良高専の飛行機"

プロジェクト名:「テキサンレストアプロジェクト」
参加学生:機械工学科1年 高橋 幸輝、星田 大貴、
3年 三部 竜太郎、末永 共助、藤井 淳平、
電気工学科2年 松村 尚汰、4年 中尾 翔也

私たちテキサンレストアプロジェクトは、正門前にある飛行機「テキサン」の修理を目標とし、今年度は次年度から本格的な修理に取り組むべく、機体の調査とそれについての報告書を作成しました。

調査の過程で実際に機体に触れ、例えば、排気口からファイバースコープ(内視鏡)を入れてみると、とても半世紀前に作られたとは思えない、美しい状態の排気バルブを見ることが出来たなど、テキサンに詰まった多くの工業技術に触れることが出来ました。また、私たちの活動目的の一つでもあるテキサンの周知のため、高専祭にて広報活動も行いました。調査のようすを見かけられ、興味を持たれた学生の皆さんとの交流なども行いました。さらに、以前よりテキサンの保全活動をされていた奈良高専OBの有志の方々との交流の後、ご協力を得られる運びとなりました。

今年度の成果として、各メンバーがテキサンについて理解を深めることができ、テキサンに関わる方々や身近に“奈良高専の飛行機”を知る方々との繋がりを得ることができました。

カウンセラーだより

『“好き”を大事に』

学生さんも、保護者の方々も、教職員の方々も、「今、自分が“好き”と思えること」について、どれだけたくさん挙げることができますか? 「好きな食べ物は?」「好きな色は?」「好きな景色は?」「好きな本は?」「好きな音楽は?」「好きな映画は?」「好きな科目は?」「好きなスポーツは?」「好きな時間帯は?」「好きな人は?」…以上、10個の質問の答えを、すぐ思い浮かべることができるでしょうか? そして、皆様の大事な家族の同じ質問に、「こう答えるかな?」と想像することはできますか?

相談の場でも“好き”について尋ねることがあります。その“好き”はそ

の人のらしさを表し、どうして“好き”なのかもっと知りたくなり、そして自分自身を見つめ直すきっかけにもなります。例えば、心身の不調がある時には、なかなか“好き”を感じる事ができない場合もあります。自分の“好き”について確認することは、メンタルヘルスを保つためにも大事ではないかと思えます。

“好き”は、自分の方向性を見失ったときに助けてくれることもあります。辛い時のエネルギー源にもなります。“好き”は、一生同じである場合もあれば、年齢を重ねるたびに変わるものでもあります。“好き”を通して自分自身の変化、進化にも気づくことができます。皆様も、ご自身の“好き”を確認しながら、自分自身について振り返

ってみませんか?学生相談室はそのお手伝いができます。皆様のお話をお待ちしております。



臨床心理士(カウンセラー)
福田 道代

本校では、各学科及び、特別相談員の先生方の相談の他に、カウンセラー(臨床心理士)によるカウンセリングを行っています。一人で悩みを抱え込んでしまわずに、なんでも相談を持ちかけてください。みなさん一人一人が、より豊かで充実した学生生活を送ることができるようお手伝いをしたいと考えています。

利用方法	学生相談室・保健室で予約できます。(予約制ですが、可能な限りその場で相談に応じます。)
開室時間	心理カウンセラー(臨床心理士)が対応します。火・金曜日 15:00~18:00
開室場所	本館1階 保健室横 カウンセリングルーム
カウンセリングの方法	カウンセリングは原則として1対1ですが、保護者や友人と一緒に受けることもできます。

カウンセリングルームは、あなたが悩みを打ち明けたい場所でありたいと来室をお待ちしています。



「廃炉創造ロボコンで文部科学大臣賞(最優秀賞)受賞!」

12月16日(土)に開催されました「第2回廃炉創造ロボコン」(文部科学省、廃止措置人材育成高等専修協議会主催)に出場した電子制御工学科5年 安川 昂佑君、大矢 直樹君、竹村 元気君のチームが、最優秀チームに贈られる文部科学大臣賞を受賞するという極めて優秀な成績を収めました。

このコンテストは、文部科学省の国家課題対応型研究開発推進事業(英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業)廃止措置研究・人材育成等強化プログラムの一環として、昨年度(平成28年度)から実施されています。また、廃止措置に係る廃炉そのものをProjectの題材としたPBL教育そのもので、ロボット製作を通じて学生に廃炉に関する興味を持たせると同時に学生の創造性の涵養に貢献し、課題解決能力のみならず課題発見能力を養う目的で開催されています。

栄えある賞を受賞した彼らを指導した同学科 島岡教授からと、チームリーダーを務めた安川君からいただいた手記を紹介します。

廃炉創造ロボコンについて

電子制御工学科 島岡 三義

福島第一原子力発電所の廃炉作業は40年以上の長期にわたる見込みであり、若い世代には廃炉作業に関心を持ち続けて頂き、ロボットや遠隔操作技術の開発に貢献して頂きたいところである。そこで、福島高専が主体の「廃炉に関する基盤研究を通じた創造的人材育成」事業では、平成28年度から「廃炉創造ロボコン」を、楢葉遠隔操作技術開発センターで開催することになった。2回目の今年度も昨年度と同じ課題が設定され、書類審査を経た15高専から16チームが出場した。本校は電子制御工学科の5年生が「モックアップ階段」部門(競技場が見えない場所からの遠隔操作で、直角に曲がる踊り場がある1階から2階までの階段(傾斜が41°で、学校の階段より急勾配)を昇り、5kgの荷物を2階に置いて1階に戻るか、または、2階の様子を確認して1階に戻る。)に出場し、課題を見事クリアして昨年度の「優秀賞」(第2位相当)を上回る、「文部科学大臣賞(最優秀賞)」を受賞した。学生の健闘を讃えたい。

廃炉に向けて

電子制御工学科5年 安川 昂佑

福島第一原子力発電所の事故以来続いている廃炉作業は、長期に渡って取り組み続けなければならない問題とされており、これからの廃炉作業問題に関わるであろう若い世代の人材育成が重要視されています。そこで、若い人材の育成などを目的に、平成28年度から福島県の楢葉遠隔操作技術開発センターにて「廃炉創造ロボコン」が開催されています。2つの競技課題のうちの「モックアップ階段」部門に大矢直樹君と竹村元気君と共にチームを組んで出場しました。モックアップ階段は実際の原子力施設内の環境を模したものとなっており、高放射線などの過酷な環境下で動作可能なロボットの製作を求められました。大変困難な挑戦でしたが、チーム一丸となって作業に取り組み、私たちが作り上げたロボット(YOT3)は見事課題をクリアして最優秀賞を頂ける結果となりました。この経験は私の成長に大きな影響を与え、仲間と共に目標に挑むことの大切さと喜びを教えてくださいました。私達の活動から、廃炉活動に少しでも関心を持っていただければ幸いです。



モックアップ階段と踊り場からさらに昇ろうとする「YOT3」



文部科学大臣賞を受賞してガッツポーズのメンバー

「卒業記念品の寄贈」

平成29年度卒業生の皆さんから卒業記念品として「ワンタッチクイックテント」を寄贈していただきました。卒業生の皆さん、どうもありがとうございました。



2400×3600 2張

行事予定 (4月～7月)

- ◆4月 1日(日) 春季休業(3日(火)まで)
- ◆4月 3日(火) 開寮・寮生集会
- ◆4月 4日(水) 平成30年度入学式・入寮式・新入寮生歓迎夕食会
- ◆4月 5日(木) 全校集会・健康診断・教科書購入・ホームルーム
- ◆4月 6日(金) 特別日課(2～4年)・5年登校日・新入生オリエンテーション1日目(1年)・新入生オリエンテーション2日目(2年)
- ◆4月 7日(土) 前期授業開始
- ◆4月 9日(月) 眼科検診(1～5年・専攻科)
- ◆4月11日(水) 学年共通試験(1・2年)
- ◆4月12日(木) 開校記念日(通常授業)
- ◆4月19日(木) 社会人教育セミナー(4年)
- ◆4月26日(木) 交通安全教室(2年)・校内リーダーズ研修会
- ◆5月 2日(水) 開寮
- ◆5月 6日(日) 開寮・寮生集会
- ◆5月10日(木) 学生会総会
- ◆5月12日(土) 近畿地区高専体育大会(硬式野球13日(日)まで)
- ◆5月15日(火) 専攻科入学願書受付(推薦:18日(金)まで)
- ◆5月17日(木) 歯科検診(1～3年)・人権合同特活(2年)・卒業生と語る会(3年)
- ◆5月22日(火) 春季スポーツ大会(1～5年・専攻科)
- ◆5月24日(木) 平成31年度専攻科入学試験(推薦)
- ◆5月30日(水) 平成31年度専攻科入学試験(推薦)合格発表
- ◆6月 3日(日) 平成31年度編入学試験
- ◆6月 4日(月) 前期中間試験(8日(金)まで)・専攻科入学願書受付(学力:11日(月)まで)
- ◆6月 6日(水) 平成31年度編入学試験合格発表
- ◆6月 8日(金) 救急法講習会(熱中症)
- ◆6月16日(土) 平成31年度専攻科入学試験(学力)
- ◆6月22日(金) 平成31年度専攻科入学試験(学力)合格発表
- ◆6月23日(土) 高専プログラミングコンテスト(予選)
- ◆6月28日(木) 人権合同特活(3年)
- ◆6月30日(土) 寮祭(7月1日(日)まで)・近畿地区高専体育大会(卓球:7月1日(日)まで)
- ◆7月 2日(月) 公開授業(6日(金)まで)
- ◆7月 7日(土) 近畿地区高専体育大会(サッカー:9日(月)まで・ソフトテニス・ハンドボール・バドミントン:8日(日)まで)
- ◆7月14日(土) 近畿地区高専体育大会(陸上競技・バスケットボール・バレーボール・剣道:15日(日)まで)
- ◆7月15日(日) 近畿地区高専体育大会(水泳)
- ◆7月18日(水) 月曜振替授業
- ◆7月19日(木) インターンシップ事前指導特別講演会(4年・専攻科)
- ◆7月21日(土) 近畿地区高専体育大会(柔道:22日(日)まで)
- ◆7月30日(月) 前期末試験(8月3日(金)まで)

編集後記

本科卒業生、専攻科修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。花の便りとともに、進路先から皆さんの活躍の便りが届くことを期待しています。4月からは奈良高専でも疑似セメスター制の導入、組織改編など新たなスタートが切られようとしています。新しい環境においても、今回、廃炉創造ロボコンで最優秀賞を受賞したように、学生の皆さんが自ら学び、実行し、充実した学生生活を送ってくれることを期待しています。今後も、皆さんのますますの活躍をお伝えできることを楽しみにしています。

奈良高専広報室

CAMPUSについて

本校では、広報誌「CAMPUS」を8月、11月、3月の年3回発行し、在学生の保護者の方々へ送付しています。また、「CAMPUS」は本校ホームページ[トップページ]＞学生生活＞CAMPUS(広報誌)にも掲載しています。